

2016年度冬版L2-Tech水準表 (案) に対する意見の回答

資料7

※御意見の全体像が分かるように、代表的なものを抽出し整理しております。

※意見の概要に記載された内容は、基本的にいただいた御意見から抜粋 (または、要約) したのですが、明らかな誤字や変換ミスについては修正しております。

※具体的な変更内容は、資料6「2016年度冬版L2-Tech水準表の主な変更点」に記載しております。

#	No.	設備・機器等の名称	カテゴリ	意見の概要	意見に対する回答
1	(共通)	(共通)	設備・機器等の名称	L2-Tech水準表に掲載されている設備・機器等の名称が適切ではない。	下記の考え方に合致する場合、同名称を見直しました。 ・当該設備・機器等であることが特定できるような名称であること ・違和感や誤解のない一般的な名称 (ex. 業界団体が使用、複数社が使用等)
2	(共通)	(共通)	設備・機器等の名称	L2-Tech水準表に掲載されていない設備・機器等を新たに追加できないか。	2016年度冬版L2-Tech水準表においては、所定の期限内にご提案いただいた設備・機器等の中で、一定の条件を満たしたものを掲載しております。したがって、2017年度冬版L2-Tech水準表での反映を検討いたします。
3	A-02-001	HFCターボ冷凍機	設備・機器等の名称	ターボ冷凍機で使用されるフロン類の冷媒はHFC以外にもある為、HFCターボ冷凍機と限定する表現を訂正いただきたい。	本御意見を踏まえ、設備・機器等の名称を「フロン類等冷媒ターボ冷凍機」と変更いたしました。なお、フロン排出抑制法ではフロン類にHFOは含まないとされており、HFO冷媒の設備・機器等が対象外と認識される恐れがあるため、原理・しくみに「HFC冷媒およびHFO冷媒を含む」との文言を追記しております。
4	A-02-004	空冷ヒートポンプチラー	設備・機器等の名称	ヒートポンプチラーに関して、通称である『空冷モジュールチラー』と『空冷一体型スクリーチラー』という名称で分けた方が、よりユーザーの選択肢が広がると考えられる。 また、ターボ冷凍機が別クラスとして分けられているならば、スクリーチラーも同等の扱いにすべきである。	本御意見は、十分に検討の時間を設ける必要があると考えられるため、2017年度以降の検討事項といたします。検討においては、ベスト追及すべき単位として、空気熱源のスクリーチラーとモジュールチラーとを区別すべきかを論点といたします。
5	(共通)	(共通)	原理・しくみ	L2-Tech水準表において記載されている原理・しくみの説明を見直すべき。	下記の4つの原理・しくみに関する要素に対して、より適切な説明を設定することができた場合、記載内容を見直しました。 ・どのような法則、論理で、どのようなサービスが提供できるのか、またはどのような方式があるのか ・どのような部材、設備・機器で構成されているのか ・従来と比較してなぜ削減できるのか ・主にどのような場所・用途で使用されるのか
6	A-02-004	空冷ヒートポンプチラー	原理・しくみ	ブライン仕様のクラスにおけるL2-Tech水準の測定単位として「IPLV」が設定されているが、標準規格は存在しない。したがって、COPのみで評価を頂きたい。	ブライン仕様の製品のIPLVを算出するための標準規格は存在しないことが確認できたため、L2-Tech水準は測定単位がCOPのもののみとしました。
7	A02-004	空冷ヒートポンプチラー	クラス	能力として「冷却能力」のみ記載されているが「加熱能力」も追記すべきである。 また、「加熱能力」についても、従来の上限55°Cの機種に対して、60°Cまで加熱可能な機種も市場投入されているため、整理・掲載するべきである。	本御意見は、十分に検討の時間を設ける必要があると考えられるため、2017年度以降の検討事項といたします。
8	A-10-001	ガスエンジンコージェネレーション	クラス	当該設備・機器等においては、高速エンジン (1000rpm以上) を搭載したものと中速エンジン (1000rpm未満) を搭載したものとで購買の選択条件が異なる。したがって、「1000kW超2000kW以下」及び「2000kW超3000kW以下」の2クラスにおいては、クラス (条件) として高速エンジンと中速エンジンを設けるべきである。	ご指摘の通り当該設備・機器等は、高速エンジンを搭載したものと中速エンジンを搭載したものとで購買の選択条件が異なる傾向にあることが確認できたため、ご指摘の通りのクラスに見直しました。
9	(共通)	(共通)	指標	L2-Tech水準表において試験条件、または計算方法として設定している標準規格 (JIS 等) を見直すべき。	L2-Tech水準表に掲載されている規格が、L2-Tech水準を決定する上で、より標準的であると判断できた場合は、試験条件、または計算方法として設定している規格を見直しました。
10	(共通)	(共通)	指標	L2-Tech水準表において試験条件、または計算方法として設定している標準条件を見直すべき。	L2-Tech水準表に掲載されている標準条件が、L2-Tech水準を決定する上で、より標準的であると判断できた場合は、試験条件、または計算方法を見直しました。

11	E-02-003	太陽電池 (化合物系)	指標	L2-Tech水準として設定されている性能値は、L2-Tech水準表に記載されている試験条件とは異なる規格 (JISC8939) に準拠し、算出された値ではないか。	L2-Tech水準として設定されている性能値は、L2-Tech水準表に記載されている規格 (JISC8914C:2005) に準拠し算出された性能値です。なお、JISC8939に記載されている「基準状態」は、JISC8914C:2005における「基準状態」と同条件であることが確認できています。
12	E-04-001	温水熱源小型バイナリー発電設備	指標	送電端出力は各社で定義が異なる。どこ点での出力を示すのかが不明確であり、また、パッケージに含みいれる機器の種類により送電端出力が異なる可能性がある。	送電端出力は以下の式で定義しています。 送電端出力 = 発電端出力 - 作動媒体ポンプほかユニット内消費電力 本定義については、各社で大きな違いはことを確認しています。
13	E-04-001	温水熱源小型バイナリー発電設備	指標	小型のバイナリー発電は排熱回収を目的とした製品であり、100°Cを下回る低位熱から発電可能であることが優位性となるため、他の発電装置と単純に発電効率という一括りでなく、用途に合わせた比較指標を検討すべきものではないか。	本御意見は、十分に検討の時間を設ける必要があると考えられるため、2017年度以降の検討事項といたします。
14	(共通)	(共通)	L2-Tech水準	L2-Tech水準表においてL2-Tech水準が「-(ハイフン)」となっているクラスについて、該当する製品を保有している。同クラスにL2-Tech水準を設定できないか。	性能値がカタログ等で確認できた場合、L2-Tech水準を設定しました。
15	(共通)	(共通)	L2-Tech水準	L2-Tech水準表に掲載されているL2-Tech水準よりも高性能の製品を保有している。	性能値がL2-Tech水準を超える製品情報をカタログ等で確認できた場合、L2-Tech水準を設定しました。
16	A-01-002	パッケージエアコン (店舗オフィス用)	L2-Tech水準	L2-Tech水準を満たす製品が存在しないのではないか。	弊社にて改めて製品調査を行ったところ、L2-Tech水準を保有する製品の存在が確認できました。